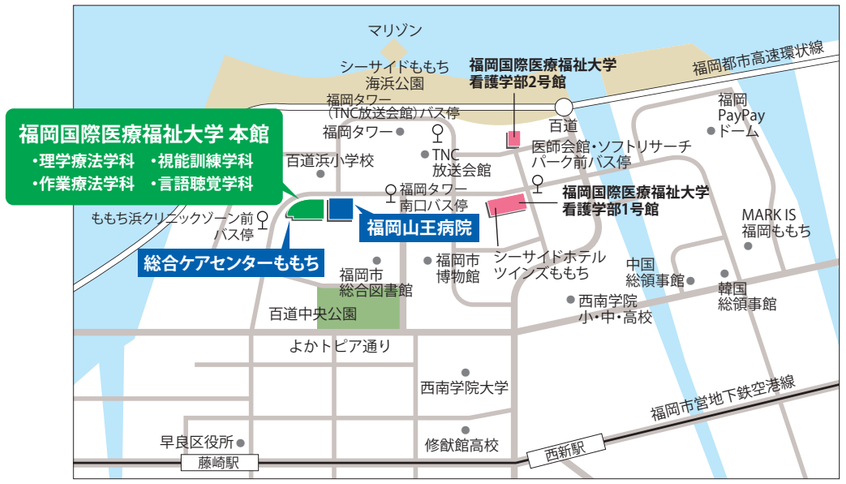



福岡国際医療福祉大学 本館
・理学療法学科 ・視能訓練学科
・作業療法学科 ・言語聴覚学科

## 本 館

〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40

医療学部 ●理学療法学科 ●作業療法学科 ●視能訓練学科 ●言語聴覚学科

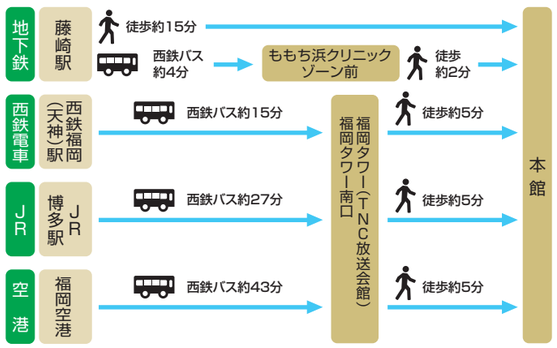
看護学部 ●看護学科

### 地下鉄でお越しの場合
◎地下鉄空港線「藤崎」駅から西鉄バスで約4分、「ももち浜クリニックゾーン前」下車、徒歩約2分（徒歩の場合、「藤崎」駅から約15分）

### 西鉄電車でお越しの場合
◎西鉄天神大牟田線「西鉄福岡（天神）」駅から西鉄バスで約15分、「福岡タワー（TNC放送会館）」バス停、「福岡タワー南口」バス停下車、徒歩約5分

### JRでお越しの場合
◎JR鹿児島本線「博多」駅から西鉄バスで約27分、「福岡タワー（TNC放送会館）」バス停、「福岡タワー南口」バス停下車、徒歩約5分

### 空港からお越しの場合
◎福岡空港から西鉄バスで約43分、「福岡タワー（TNC放送会館）」バス停、「福岡タワー南口」バス停下車、徒歩約5分





福岡国際医療福祉大学

問い合わせ先

0120-05-5931
（月～土／9:00～17:00）

TEL 092-832-1200
FAX 092-832-1167
E-mail nyushi@takagigakuen.ac.jp
WEBサイト https://fiuhw.takagigakuen.ac.jp/


# 福岡国際医療福祉大学

## 医療学部
# 言語聴覚学科
## 2023

Fukuoka International University
of Health and Welfare

2023年4月 開設

# 2023年4月、福岡県で唯一となる4年制大学の言語聴覚学科が誕生。

国際的な視野を持った次世代のリーダーとなり得る医療専門職を養成する福岡国際医療福祉大学に、2023年4月、新たに言語聴覚学科が開設されます。姉妹校・国際医療福祉大学の福岡保健医療学部言語聴覚学科（大川キャンパス）がこれまでに培ってきた医療・福祉の技術力、教育ノウハウ、そして整った学修環境（学内設備、グループ関連医療福祉施設との連携等）を継承し、幅広く活躍できる言語聴覚士を養成します。

## 建学の精神・基本理念
## 「生命の尊厳、生命の平等」

病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現をめざす。

### 教育目標

① 「チーム医療・チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する
② 保健・医療・福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導者となり得る人材を養成する
③ 国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力を持った人材を養成する
④ 知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する
⑤ 時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する

ごあいさつ

### 国際的な視野を持ち、次世代のリーダーとなり得る医療専門職を養成します

理事長
高木　邦格

現在、超高齢社会に向けて医療需要の増大や地域包括ケアシステムの構築といった、リハビリテーション医療を取り巻く環境は大きく変化しており、それらを担う高度な知識を持った医療専門職がますます必要とされています。

アジアの玄関口である福岡市では、グローバルな視点をもった保健・医療サービスの提供や政策の立案に携わる医療従事者の養成が求められており、今後は隣接するアジア諸国においてもリハビリテーション専門職の需要が高まると見込まれています。こうした状況下、政令指定都市である福岡市およびその近郊にはこれまでリハビリテーション専門職を養成する4年制大学がなかったことから、より実践的で高度な知識を持った医療専門職の人材を養成するため、2019年4月、福岡市で初めてとなるリハビリテーション専門職養成の4年制大学を新設いたしました。

また、2021年4月には、グループの学校法人国際医療福祉大学から福岡看護学部を移管し、新たに「看護学部看護学科」を開設しました。以前の福岡看護学部の学修環境を継承しつつ、他職種の学科と一体となることによって、「チーム医療・チームケア」の学びを更に深めることができると期待しています。

看護学部を含め、本学のキャンパスは美しい景観と都市機能を併せ持った「ももち浜地区」にあり、「教育・医療・福祉」が一体となった教育環境に立地しています。この恵まれた環境のなか、経験豊かな教育陣のもと、日本の医療福祉分野の教育をリードしてきた国際医療福祉大学と密接に連携を図りながら、きめ細かく質の高い教育と研究の実践をめざしてまいります。

さらに、これまでグループが培ってきた、医療専門職養成の実績や教育方針をさらに発展させ、より高度な知識と応用能力を修得した人材を育成するべく、豊かな人間性を育むリベラルアーツに重きを置いたカリキュラムを編成し、コミュニケーション能力や問題解決能力、各分野に関する科学的・創造的思考やリスクマネジメント能力の向上をめざした教育に力を入れております。

今後とも、西日本地区の医療を支えながら、「チーム医療・チームケア」に貢献できるメディカルスタッフの養成をめざし、教職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

ごあいさつ

### 西日本屈指の医療系総合大学で学ぶ「チーム医療・チームケア」

学　長
原　英夫

2019年4月、シーサイドももちに新しく福岡市初のリハビリテーション系の大学が誕生しました。大学の基本理念は、建学の精神である「『生命の尊厳、生命の平等』を理解し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる社会』の実現をめざす」ことであり、高度に専門・分化した医療に対応できるのみでなく、豊かな教養を備えたリーダーの育成とグローバルに活躍できる人材の育成を目的として設立されました。2021年度には看護学部が開設され、西日本屈指の医療系総合大学へと成長を遂げています。

本学の教育目標の一つに、「チーム医療・チームケア」に貢献できる専門性の高い人材の養成を掲げています。学科の垣根を越えて共に問題解決に取り組む「関連職種連携教育」では、保健・医療・福祉に携わる職種の専門性と関連性、「チーム医療・チームケア」の理念と技能をより実践的に学ぶことができます。国家資格等の取得にあたっては、姉妹校の国際医療福祉大学と連携し、1年次から国家試験直前まで徹底したきめ細かな指導とサポートで、100%合格をめざします。

国際的な高齢化社会の到来、そして新型コロナウイルス感染症拡大により、医療のニーズはますます高まることが予想されます。本学で学び、直面する困難を乗り越え、患者様やご家族、上司や同僚・後輩たちから真に信頼される医療人になってほしいと願っております。みなさんの輝かしい未来の実現に向けて、教職員一同取り組んでまいります。

**PROFILE**

1983年九州大学医学部卒業、1990年九州大学博士課程医学系研究科修了。九州大学医学部附属病院、国立精神・神経センター神経研究所室長、国立長寿医療センター研究所室長、2011年佐賀大学医学部内科学講座教授、2015年佐賀大学医学部長に就任、2022年福岡国際医療福祉大学学長に就任、佐賀大学名誉教授。2005年「2005 Alzheimer Award」、2006年「日本神経免疫学会賞」を受賞。



医療学部

# 言語聴覚学科

定員 40名

取得可能な資格
言語聴覚士
国家試験受験資格

### アドミッションポリシー

①言語聴覚療法の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者

②基本的倫理観を持つ者

③各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者

④海外の保健・医療・福祉、特に言語聴覚療法に興味を持つ者

### 切望される医療専門職として活躍してみませんか

言語聴覚士は、コミュニケーション機能や飲み込みに問題がある方をサポートする医療専門職（国家資格）であり、全国に4万人近くの有資格者がいます。

主な活躍の場は病院のリハビリテーション科で、理学療法士や作業療法士と共に、脳卒中やパーキンソン病など言語障害や飲み込みの障害を発症した患者様に対して、評価・訓練・指導を行います。他にも、難聴、吃音、発達障害を抱える患者様のサポートを行うこともあるため、福祉や教育の場でも言語聴覚士の必要性が高まっています。対象とする障害によっては他の身体障害の患者様と比べて回復が長期にわたることが多いため、現在、より多くの言語聴覚士が必要とされています。

本学の姉妹校である国際医療福祉大学大川キャンパスは、1期生より常に就職率が100%を達成、国家試験も過去5年中3度も100%を達成しています。その大川キャンパスの業績と教育経験を継承し、2023年4月、福岡国際医療福祉大学に言語聴覚学科が誕生します。この百道の地で、言語聴覚士の夢を叶えましょう。

言語聴覚学科 学科長（予定者）
爲数 哲司教授

**PROFILE**

西南学院大学、国立身体障害者リハビリテーションセンター学院卒業。長崎大学大学院修了、西南学院大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。長崎リハビリテーション学院言語療法学科学科長、国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科学科長を経て、2023年4月本学言語聴覚学科学科長に着任予定。日本音声言語医学会評議員、日本高次脳機能障害学会代議員、リハビリテーション教育評価機構評価員。

## コミュニケーションを科学的に分析し、「ことば」や「聞こえ」の機能を向上させる言語聴覚士を養成

言語聴覚士は、人間にとって重要なコミュニケーション機能や飲み込みに障害を持つ人へ評価や訓練、指導などを行う医療専門職です。対象は、乳児から高齢者まで幅広く、障害の種類や程度もさまざまです。そのため、たくさんの知識や技術のほか、コミュニケーション能力が必要になりますが、1年次の関連施設における言語療法場面の見学、2年次の保育園や高齢者施設でのコミュニケーション体験、3･4年次の病院や施設での臨地実習を通してこれらを修得していきます。数人の学生グループに専任教員を配置したアドバイザー制で、きめ細かな指導を行うフォロー体制も整備しています。

## 言語聴覚学科の特色

言語聴覚学科は、専門性、総合性、柔軟性、社会性、国際性を備え、対象者に寄り添う心を持ち、対象者および関連職種と十分なコミュニケーションがとれる言語聴覚士を養成することを目的とし、以下の6つの特色に基づいた教育を実践します。

**POINT 1** 1年次より段階的に、豊かなコミュニケーションが実践できる能力の修得

**POINT 2** 海外研修（海外保健福祉事情Ⅰ･Ⅱ）や語学教育を通じて、医療のグローバル化に対応可能な国際的なコミュニケーション能力や問題解決能力を身につける機会の充実

**POINT 3** 関連職種連携教育を実施し、段階的にチーム医療･チームケアの重要性を学び、他職種と協働できる能力の修得

**POINT 4** 高度な知識の獲得を目指してInformation and Communication Technology (ICT) の活用や図書館の有効利用の推進、さらに、問題解決能力を育てるためのアクティブラーニングの実践

**POINT 5** きめ細かな指導を徹底するために、担任制、アドバイザー制や、少人数での学内実習の実践といった学修環境の整備

**POINT 6** 進歩し続ける言語聴覚障害学分野および近接分野の知識･技術を身につけ、現時点で最善の言語聴覚療法を提供できるような系統的かつ段階的な講義、演習、臨地実習の展開

### 活躍のフィールド

| 医療機関 | 福祉施設 | 介護施設 | 学 校 | 教育機関（養成校） | 医療福祉関連企業 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ●病院･診療所（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、小児科、形成外科、口腔外科）ほか | ●障害福祉センター<br>●小児療育センター<br>●通園施設<br>●放課後デイサービス ほか | ●養護老人ホーム<br>●介護老人保健施設<br>●ケアハウス<br>●グループホーム ほか | ●特別支援学校（聴覚障害･知的障害･肢体不自由）ほか | ●大学<br>●専門学校 ほか | ●補聴器関連会社<br>●人工内耳関連会社 ほか | ●行政機関<br>●研究機関<br>●ボイスセンター ほか |



## 主な履修科目

### 総合教育科目

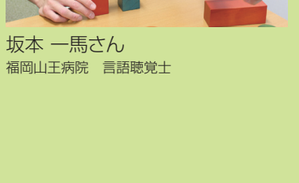
- 統計学
- 医療とICT
- 医学英語Ⅰ
- 医学英語Ⅱ
- 生命倫理
- 健康科学理論
- 健康スポーツ実践

### 専門基礎科目

- リハビリテーション概論
- 関連職種連携論
- 保健医療福祉制度論
- カウンセリング論
- 基礎薬理学
- 栄養学
- 救急医学
- 解剖学
- 生理学
- 病理学
- 内科学Ⅰ（基礎）
- 精神医学
- 小児科学
- 耳鼻咽喉科学
- 音声言語医学
- 中枢神経機能学
- 臨床心理学
- 神経心理学
- 音声学
- 言語学Ⅰ（基礎）
- 聴覚心理学

### 専門科目

- 失語症･高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）
- 失語症･高次脳機能障害学総論Ⅱ（展開）
- 言語発達障害学総論
- 言語発達障害学各論
- 聴覚障害学総論
- 発声発語障害学総論
- 機能性構音障害学
- 流暢性障害学
- 高次脳機能障害学
- 失語症学Ⅰ（評価･診断）
- 失語症学Ⅱ（治療）
- 言語発達障害学Ⅰ（評価･診断）
- 言語発達障害学Ⅰ演習（評価･診断）
- 言語発達障害学Ⅱ（指導）
- 言語発達障害学Ⅱ演習（指導）
- 小児聴覚障害学Ⅰ（評価･診断）
- 小児聴覚障害学Ⅱ（指導）
- 失語症･高次脳機能障害学演習
- 運動障害性構音障害学Ⅰ（理論）
- 運動障害性構音障害学Ⅱ（評価診断･治療）
- 摂食･嚥下障害学Ⅰ（理論･評価診断）
- 摂食･嚥下障害学Ⅱ（治療）
- 言語聴覚障害学研究法



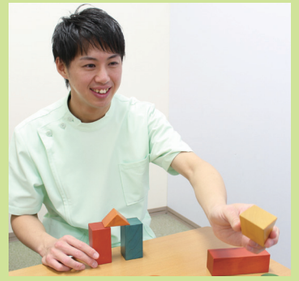
## 言語聴覚士として活躍中!

### 発達障害の子どもたちのお兄さんのような存在をめざして大学院と認定資格取得に挑戦中

私は姉妹校の国際医療福祉大学で言語聴覚を学び、現在、福岡山王病院で勤務しています。就職してからずっと子どもを対象とすることが多かったこともあり、主に発達障害を持った子どもの言語訓練を任されています。子どもはことばが増えたり、コミュニケーションが伝わるようになったりと日々成長を感じる瞬間が多いため、やりがいもひとしおです。7年間働いてきましたが子どもやご家族から感謝されると、やはり今でも喜びを感じます。

一般的に子どもを専門とする言語聴覚士の多くは女性です。しかし、男性の言語聴覚士だからこそ、子どもたちのお兄さん的存在として寄り添うことができるのではないかと私は考えています。

現在、発達障害に関する知見を深めるため、仕事の傍ら、国際医療福祉大学の大学院にも通っています。ゆくゆくは発達障害領域での認定資格も取得したいと考えているため、仕事と大学院を両立しながら邁進していきたいです。



坂本 一馬さん
福岡山王病院　言語聴覚士

## 国際医療福祉大学·高邦会グループと言語聴覚士の関わり

本学の姉妹校である国際医療福祉大学は、言語聴覚士が国家資格となる4年前、1995年の開学当時より言語聴覚学科を設置。日本初の言語聴覚士(米国資格)で日本聴能言語士協会会長であり初代学科長でもある笹沼澄子氏をはじめ、日本を代表する数々の言語聴覚士を学科長·教員として迎え、長きにわたり言語聴覚士の地位向上に努めてきました。現在は大田原キャンパス、成田キャンパス、大川キャンパスに言語聴覚学科を設置しており、例年多数の国家試験合格者を輩出しています。そのうち、大川キャンパスの教員を迎え、2023年4月、福岡国際医療福祉大学に言語聴覚学科が開設されます。

## 姉妹校の実績とノウハウを採り入れ 国家試験合格·就職に向けて徹底サポート

福岡国際医療福祉大学は、医療福祉専門職の養成とその地位向上をめざし、日本で初めての医療福祉の総合大学として1995年に開学した国際医療福祉大学の姉妹校です。国際医療福祉大学は、毎年、国家試験の合格率が全国トップクラス。就職率は100%を実現し、日本のリハビリテーション·看護をリードする多くの医療専門職を輩出しています。2023年4月に開設される言語聴覚学科においても、その実績とノウハウを採り入れ、国際医療福祉大学とも密に連携を図りながら国家試験合格と就職に向けたサポートを行っていきます。

### 姉妹校の実績

●国家試験合格率 **100%**

※国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科の
令和4年2月実施言語聴覚士国家試験合格率(新卒者の合格率)
※全国合格率75.0%(全受験者の合格率)

●就職率 **100%**

※国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科2021年度卒業生実績
※就職者数35人、就職希望者数35人、2022年5月1日時点

## 約60のグループ関連医療福祉施設が 教育·実習·研究をバックアップ

本学は、教育·医療·福祉の総合グループ「国際医療福祉大学·高邦会グループ」の一員です。本学に隣接する福岡山王病院をはじめ、福岡·東京·栃木·神奈川·静岡·千葉に広がる約60の関連医療福祉施設が、本学での教育·実習·研究をバックアップします。

大学に隣接する福岡山王病院(福岡市)

高木病院(福岡県大川市)

国際医療福祉大学成田病院(千葉県成田市)



## 学費·奨学金

### 学生納付金

医療学部(理学療法学科／作業療法学科／視能訓練学科／言語聴覚学科)

| 納付時期 | 入学金 | 授業料 | 実験実習費 | 施設設備費 | 合計 | 4年間合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 初年度 | 300,000円 | 900,000円 | 50,000円 | 300,000円 | 1,550,000円 | 5,900,000円 |
| 2～4年次 | — | 900,000円 | 250,000円 | 300,000円 | 1,450,000円 | |

*学生納付金等の詳細は、「福岡国際医療福祉大学言語聴覚学科2023学生募集要項(追補版)」で確認してください。

### 学費サポート

**特待奨学生制度**

本学では、医療福祉の専門職をめざす皆さんの進学を経済的に支援することを目的として、特待奨学生制度を導入しています。「一般選抜前期」、「大学入学共通テスト利用選抜」において、科目試験の結果および出願書類を総合的に判断し、特に成績優秀であり、本学の特待奨学生としてふさわしいと認められる人物を選抜します。
特待奨学生にはS·Aの2種類があり、4年間の授業料に対して特待奨学生Sは100%相当額、特待奨学生Aは50%相当額を給付します(ただし奨学金は各年度の授業料に振り替えます)。

| 入試方式 | 特待奨学生区分 奨学金給付額 | 対象学科·人数 | 奨学金給付額 (4年間合計) | 奨学金給付前の学生納付金 → 奨学金給付後の学生納付金 |
|---|---|---|---|---|
| 一般選抜前期<br>大学入学共通テスト利用選抜 | 特待奨学生S 授業料 100%相当額 | 理学療法学科1名<br>作業療法学科1名<br>視能訓練学科1名<br>言語聴覚学科1名 | 360万円 | 590万円 → **230万円** |
| | | 看護学科2名 | | 614万円 → **254万円** |
| | 特待奨学生A 授業料 50%相当額 | 理学療法学科3名<br>作業療法学科3名<br>視能訓練学科3名<br>言語聴覚学科3名 | 180万円 | 590万円 → **410万円** |
| | | 看護学科6名 | | 614万円 → **434万円** |

*上記学生納付金は4年間の総額です。なお、学生納付金には、授業料以外に入学金(初年度のみ)、実験実習費、施設設備費が含まれます。

**年間成績優秀賞**
前年度の成績優秀者から選考し、2年次以降各学科·各学年1名に給付され、当該年度の授業料に振り替わります。給付金額は、医療学部が30万円、看護学部が45万円です(特待奨学生S·Aは表彰のみ)。

**学生修学支援事業**
学生納付金負担者の不慮の事故等に伴う家計急変者を対象とした制度です。

### その他の奨学金制度·学資ローン

**日本学生支援機構奨学金**
法律に基づく、広く一般的な修学困難者が対象の制度。学力·家計の基準があります。

| | |
|---|---|
| 金額 | ■ 第一種(無利子) 自宅通学:月額2万、3万、4万、5.4万円から選択<br>自宅外通学:月額2万、3万、4万、5万、6.4万円から選択<br>■ 第二種(有利子) 月額2万～12万円の間から1万円単位で選択<br>■ 給付 自宅通学:月額3.83万円、2.56万円、1.28万円<br>自宅外通学:月額7.58万円、5.06万円、2.53万円<br>*金額は家計基準により決定します。 |
| 採用年次 | 入学後または高校3年次の予約採用 |

*給付に関して留学生は対象外となります。*本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象校です。

**自治体主催奨学金**
地方自治体独自の奨学金制度です。都道府県·市区町村によって制度の有無·内容が異なるため、詳細はお住まいの自治体に確認してください。

**民間育英財団奨学金**
民間の財団が社会奉仕の一環で行う制度です。

**学外教育ローン**
国や民間の金融機関で取り扱う教育ローンです。

**大学提携教育ローン**
本学では、入学手続時や授業料の支払い時に、株式会社オリエントコーポレーションと提携した教育ローンをご案内しています。本学を受験する前に事前審査が可能です。

*上記は2022年7月時点の内容です。今後変更となる可能性もございます。詳細は各制度のWEBサイト等でご確認ください。